女式半棒圖解

全

187
429

元華族女學校校長男爵細川潤次郎君序文
學習院女學部長從四位下田歌子女史題歌
十劍大神流師範 乾尊軒 山邊春正君著

女式半棒圖解 全

東京 金盛堂書店

明治
39 5 17
内交

金瓶梅詞話

全

東京帝國大學圖書之印

明治
39 5 17
内交

十劍大神流女式半棒圖解

例言

一本書は女子の精神脩養品性維持體育奬勵を目的とし出版せしものなり

一本流は本書を初刊とし柔術薙刀懷劍居合等武術一切の圖解を順次出版せんとす

一本書は初學に便せん爲め韓字に平假名を附したれども再見の字に附せず兒女の記憶を發達せんとするの微意に外ならず

一本書說明に解しかたき場處ある時は本書を携へ來りたるものに限り丁寧に說明を與ふべし

明治三十八年　月　日

編者識

注意

一目附けの事
何づれの場合にても對手の面てを注視するの心得あるべし

一氣合の事
一搆への場合は　ヤー
一打込み又は突の場合は　トー
一受け又は拂ひの場合は　ヤー

女式半棒圖解の序

棒は一つの武器にして之を用ゐることは一つの武藝なり中にも半棒といへるは稍短きものにて專ら護身の具として用ゐられたり而して其の用法は家家の流義に由りて傳授せしのみにて一定の形式とてはなかりしを此の度山邊春正ぬし占法を斟酌して新に工夫を加へ種々の動作を集めて其の順序を設け繪圖に由りて姿勢を示し簡短なる説明をも附して一つの摺卷とし題して女式半棒圖解と曰へり女流護身の爲にものしたれはなり

抑ゝ女流の武藝に於て薙刀は第一の利器たること疑

ふへくもあらすされと此は特殊の武器にして常に携帶すへきものにあらす匆卒の際之に代用すへきものなきに苦むへしさるを此の半棒の如きはいつにても得易きのみならす傘にまれ杖にまれ代用すへきものいくらもありて其の用法にたに習熟するときは應用の道廣くして護身の爲には極めて便利なるへし此れ山邊ぬしか殊更に此の法を世に公にする所以にして余か讀者に告けんと欲する所なり若又此の法を講習するに付けて心膽を錬り身體を健にする利益の如きは一般の武藝に關する所なれは詳にせすともよかるへし

明治三十八年十二月

細川潤次郎

十劍大神流女式半棒圖解目次

序段

用意の姿勢……一

一本目　撞木突……三

二本目　腰平留……六

三本目　突棒振打……八

四本目　突棒しごき突……十一

五本目　すくみ打……十五

六本目　刎上げ……十九

初段

一本目　横突……二十六

二本目　撞木刎上げ……二十七

三本目　横拂留……二十九
四本目　平手留……三十二
五本目　横拂……三十四
六本目　上段打……三十七
七本目　上段直打……三十八

中段

一本目　鳥居卷打……四十
二本目　横平留……四十一
三本目　卷れ拂……四十三
四本目　卷れ進退……四十五
五本目　裾拂留……四十五
六本目　しごき突き……四十八
鳥居上段下構……五十

上段

一本目　襟一文字上段構……五十二
二本目　裾拂……五十五
三本目　襟一文字雙手打突き……五十七
四本目　腰一文字逆拂ひ順直し……五十九
眞暗撥上拂……六十三
擔構十方打……六十九
不動上段打……七十二

通計二十七形四十六圖

十剣大神流女式半棒圖解

山邊春正著

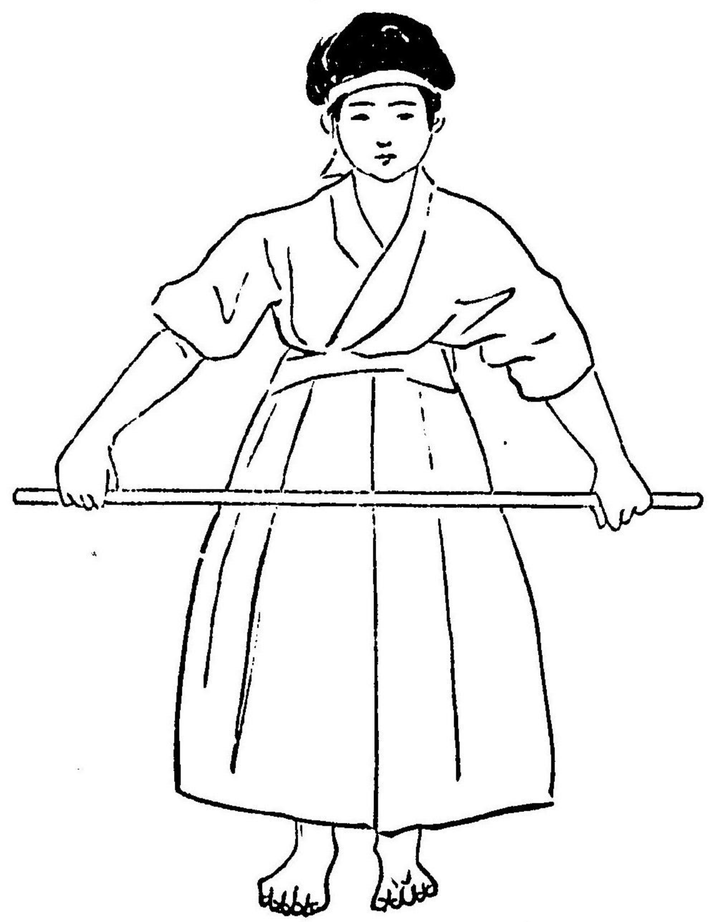
第一　序段　六本

用意の姿勢

第一圖　右圖の如く不動の姿勢にて右手に棒の眞中を持ち棒の上端を右足のクロブシに並行せしめ左手にて袴の笹襞より

股にかけて輕く股立を取り足尖を開くべし

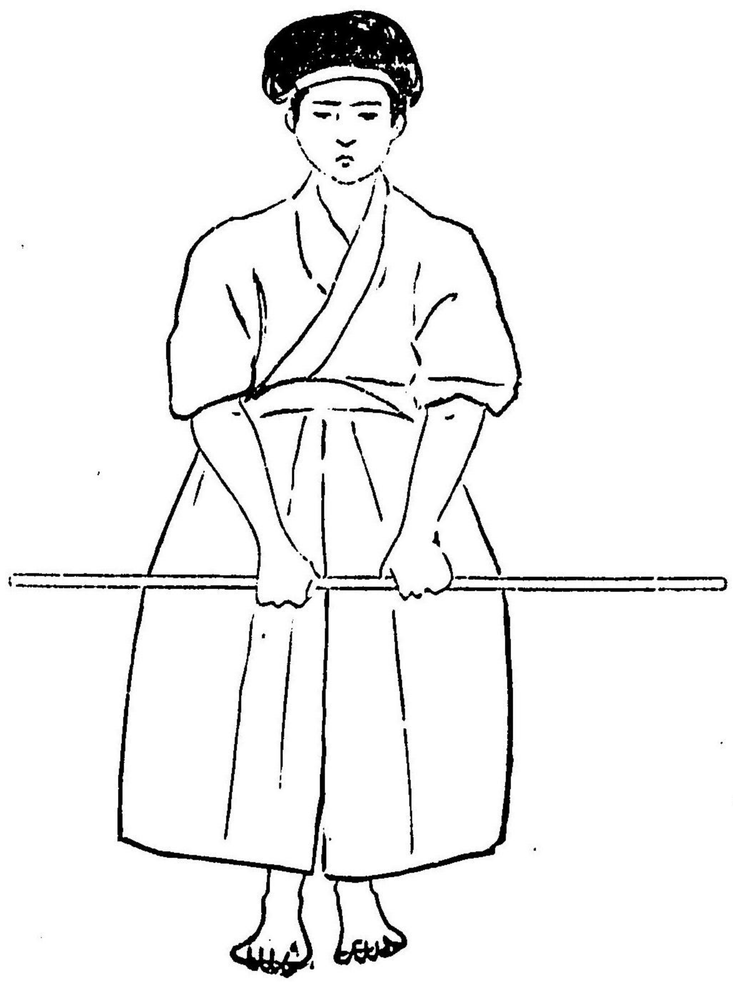
第二圖



第二圖　右圖の如く棒の兩端を持ち用意の構へとなり更に又

第三圖の如くに持ち直すべし

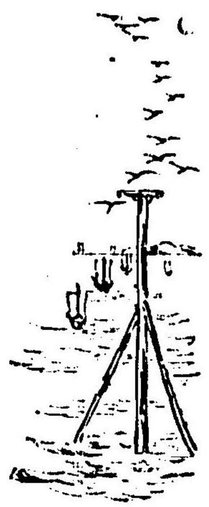
第三圖



一本目　撞木突　此の形は左右より打込む對手の胃を突くな

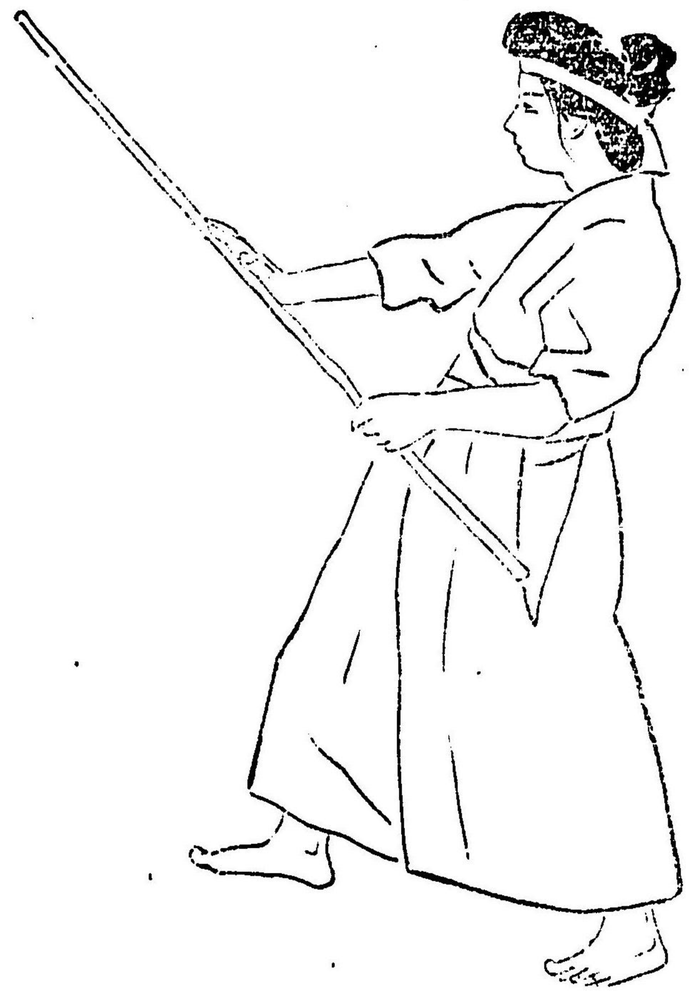
第四圖

第四圖　右圖の如くに右足其のまま左足を蹈出だすと同時に棒を左側に突き出し第三圖の姿勢に復し次に左足其のまゝ右足を蹈出すと同時に右側を突き第三圖に復す



三本目　腰平留　此の形は對手より腦突横を打ち來るを受け止むるなり

第五圖



右形は第二圖の構より第三圖の構となり第五圖の如くに棒の下端を左の腰に緊著すると同時に右足を一歩蹈み出し之れと共に右の掌を以て棒を前面に押し第三圖に復す左亦之れに倣ふ

三本目　突棒振打（つきぼうふりうち）　此の形は對手の腦を打ち來るを拂（はら）ひながら對手の腦を打なり

第六圖

第七圖

右の形は第二圖の構へより第六圖の如く棒を前方に突き立て左手其のまゝにし右の足を後方に一歩引くと同時に右の手にて股立を取り左足其まゝ右足を蹈み出すと同時に右肩より振り出し第七圖の如くに引きたる足を一歩蹈み出し前面を打ち第二圖の構へに復す左も亦之れに倣ふ

四木目　突棒しこき突き　此の形は對手の胃を突くなり右は槍法なれば左手充分に張り成るべく體を薄く平らたく構ふるなり

第八圖

第九圖

第十圖

第二圖の構より第八圖の如くに棒を前方に突き立て第九圖の如くに左足を一歩踏み出し右側面し第十圖の如くに二回突き出し第二圖に復す右も亦之れに倣ふ

五本目　すくみ打　此の形は腦を打ち込み來るを體を屈し對手の胃を突き立ちながら對手の腦を打つなり

第十一圖

第十二圖

第十三圖

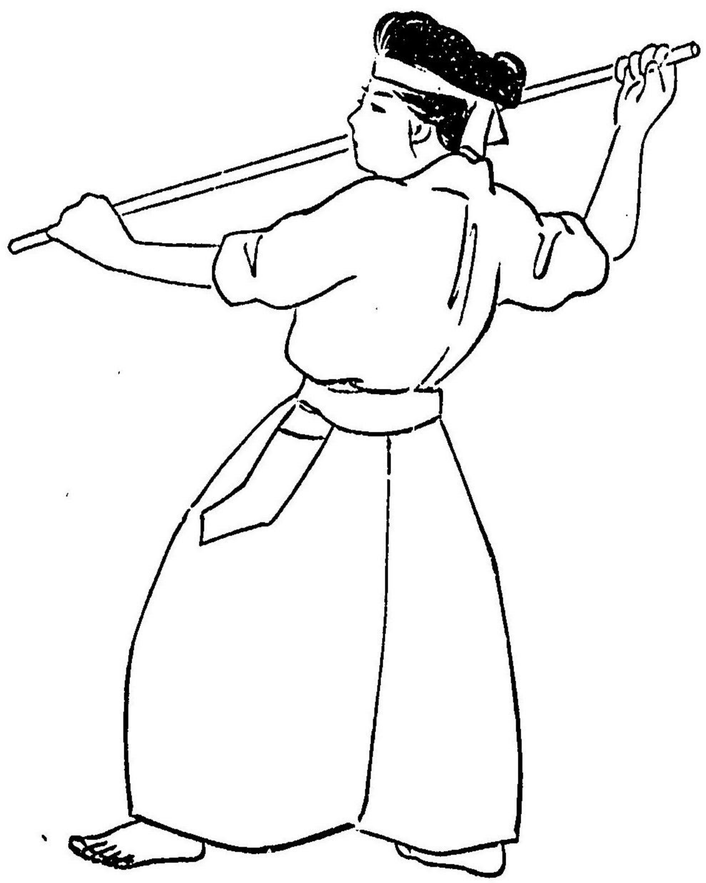
右の形は第二圖より第八圖の如く右手を上に棒を突き立て第十一圖の如くに體を屈し次に第十二圖の如くに右の足を踏み出し第十三圖の如くに打下ろし右足舊の位置に復すると同時に左の足を踏み出し左の肩より打ち出し其のまま右足を踏み出し第十三圖の如く右肩より打ち出し舊位置に復し第二圖に復す

六木目　刎上げ　此の形は對手の打込むを刎上げ棒をしごひて對手の腦を打つなり

第十四圖

第十五圖

第十六圖



第十七圖

右の形は第二圖の構より第十四圖の如くに構へ左足を蹈み出すと同時に第十五圖の如くに前方に刎上げ左手其のまゝ第十六圖の如く右手を以て棒を右肩上に引き上ぐると同時に第十七圖の如くに右足を蹈み出し前方を打ち第二圖に復す左亦之れに倣ふ

第十八圖

初段　七本　注意段の變り目の時は第一圖の姿勢より第二圖の構となるべし以下之れに倣ふ

第十九圖

一本目　横突　此の形は對手の胃を突くなり

第一圖の姿勢より第二圖の構となり第十八圖の如くして第十九圖の如く左足を左へ一歩踏み出すと同時に棒を突き出し第二圖に復す左亦之れに倣ふ

二本目　撞木刎上げ　此の形は睾丸又は小手を刎上げ對手の腦を打つなり

第二十圖

第二十一圖

右の形は第二圖より第一圖の如く棒の眞中を持ち第二十圖の如く右足一歩前へ踏み出すと同時に刎上げ直に第一圖に復し第二十一圖の如くして背面にて棒を左手に取り直し第一圖の左構をなし刎上げは右に倣ふ

三本目　横拂留　此の形は對手の腦と打ち來たるを横に拂ひ止め對手の横面を打ち小手を拂ふなり

第二十二圖

右の形は第二圖より第十八圖の如くし第二十二圖の如く右足を一歩踏み出すと同時に右の手を充分に張り横に拂ひ正面にて棒を留め第二圖に復し第十八圖の左構へとなり左足を踏み出し右の如くに拂ひ第二圖に復す

四木目　平手留　此の形は對手の打込むを受け止むるなり

第二十三圖

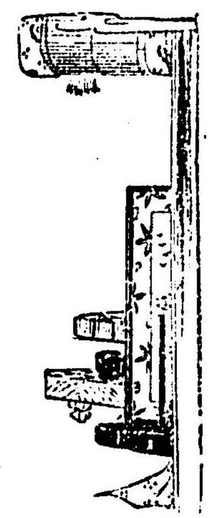
右の形は第二圖より第二十三圖の如く右足を一歩蹈み出すと同時に右掌を以て棒の中間に當て受け留め第二圖に復す

第二十四圖

五本目　横拂　前に同じ　薙刀の法にして五行引き雷形なり

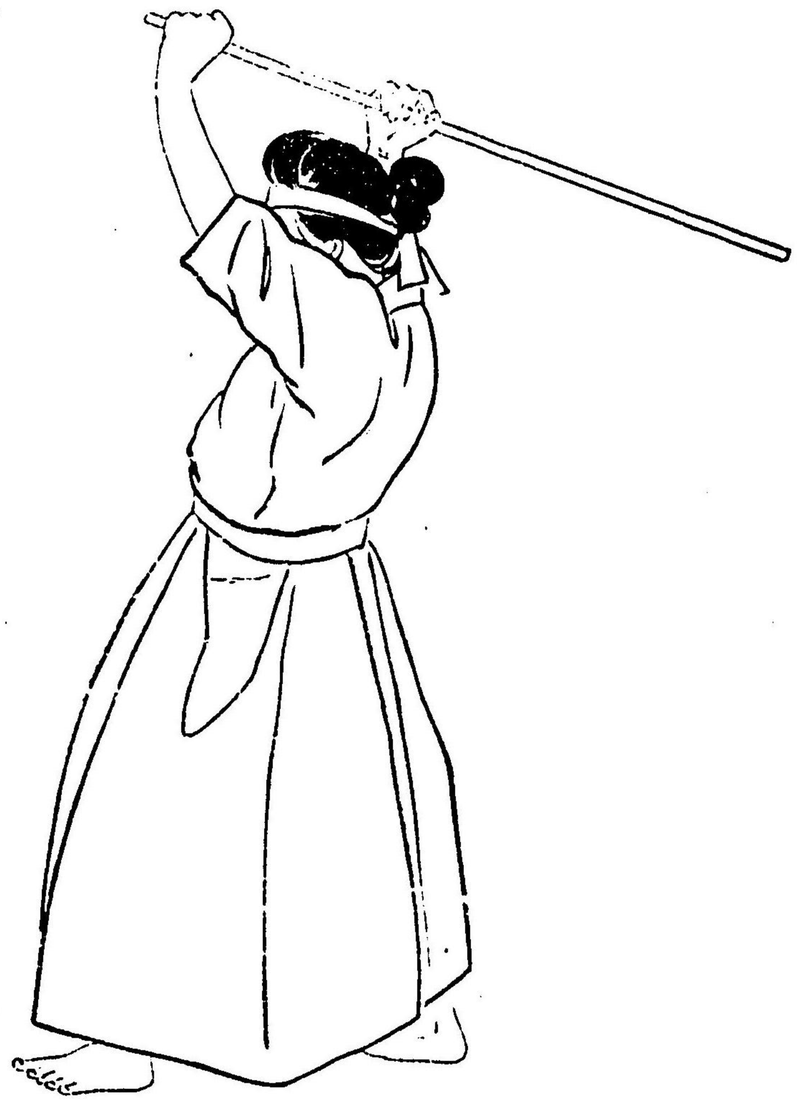
第二十五圖

右の形は第二圖より第二十四圖の如く右足を後方に引くと同時に右手の手甲を内に第二十四圖の如くに持ち替へ右足を前方に蹈み出すと同時に第二十五圖の如く横に拂ひ右手の手甲を外に持ち換へ次に第二圖に復す右亦之れに倣ふ



六本目　上段打　此の形は對手の腦を打つなり

第二十六圖



右の形は第二圖より第二十四圖の如く左足を蹈み出し棒を持ち直し第二十六圖の如く上段に取り第七圖の如くに打ち下し第二圖に復す

七本目　上段直打

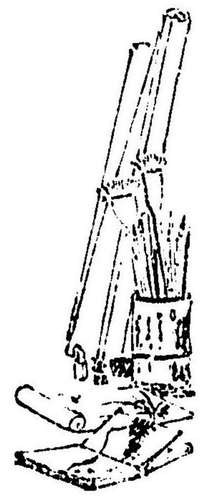
右の形は第二圖より第二十六圖の如く上段にて打下ろし直ちに右手を引くと同時に上段の構へに復し二回打ち下し第二圖に復すべし

第二十七圖

中段鳥居卷打　此の形は對手の肩を打つなり

一木目

右の形は第一圖より第二圖の構となり第二十四圖の横拂留の構をなし第二十七圖の如くに横上段に取り右足を一歩蹈み出すと同時に横斜に打ち下ろし第二圖に復す右亦之れに倣ふ



二木目　横平留　此の形は對手の胴と打つを受け止めるなり

第二十八圖

右の形は第二圖より第二十八圖の如くに左足を左横に引くと同時に右向きとなり右掌を以て圖の如く受け留め第二圖に復す右亦之れに倣ふ

三本目　卷(まき)れ拂(はらひ)　此の形は四方より圍(かこ)まれし時對手の襟(えり)を拂ふなり

第二十九圖

右の形は第二圖の構より第二十九圖の如くに左足を引き左向きとなり左を拂ひそれより左足を前へ蹈み出し右向きとなると同時に第二十四圖の構ひとなり第二圖に復す右亦之れに倣ふ

四本目　卷れ進退

右の形は卷れ拂の如くにしつゝ前方へ三歩進み次に同樣に三歩退く

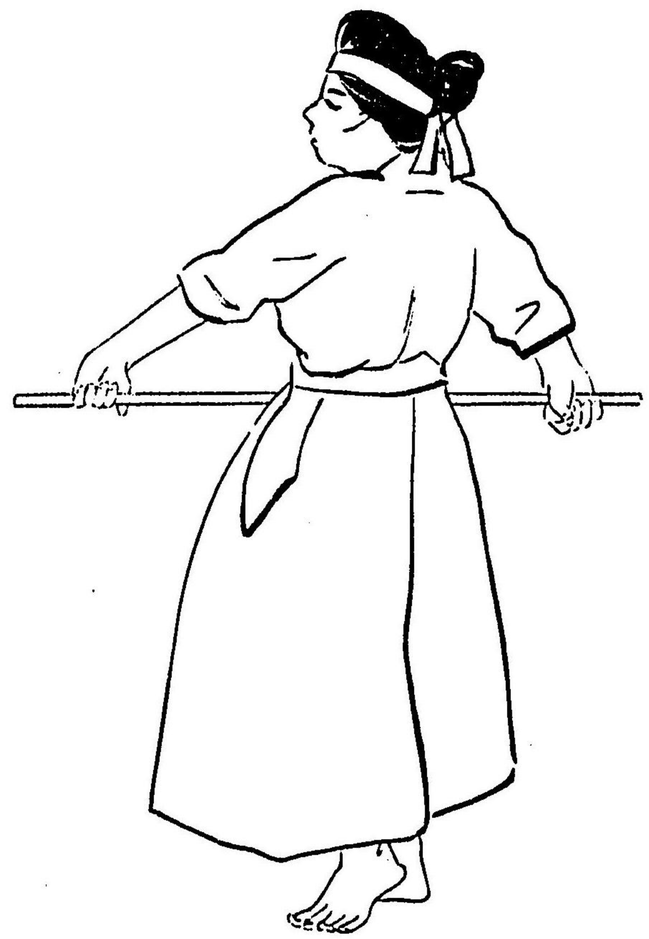
五本目　裾拂留　此の形は對手より兩足を打ち來たるを受け止むるなり又薙刀槍を受ける法なり

第三十圖

右の形は第二圖より横拂の構となり第二十七圖の鳥居上段に取り右足を引くと同時に第三十圖の如くに地上を距ること三寸許りの所に打ち下し第二圖に復す右亦之れに倣ふ

六本目　しどき突き　此の形は對手の面又は胃を突くなり

第三十一圖



第三十二圖

右の形は第二圖の構より其のまゝ左足を蹈み出し第三十一圖の如く右向きとなり左足を右足に引き付け爪立て直ちに左足を一歩蹈み出すと同時に第三十二圖の如き構へにて左足其儘にて二回突き第二圖に復す右亦之れに倣ふ

鳥居上段下構　此の形は對手の腦と打ち來たるを體を屈して避け對手を突くか飛び打ちにするか居合法にて地擦り青眼の構と云ふなり

第三十三圖

右の形は第二圖より第二十四圖の前向き一足立の構より取り第三十三圖の如くに兩膝を屈し足尖を地に付け圖の如くに打ち下し構へ立つと同時に第二圖に復す

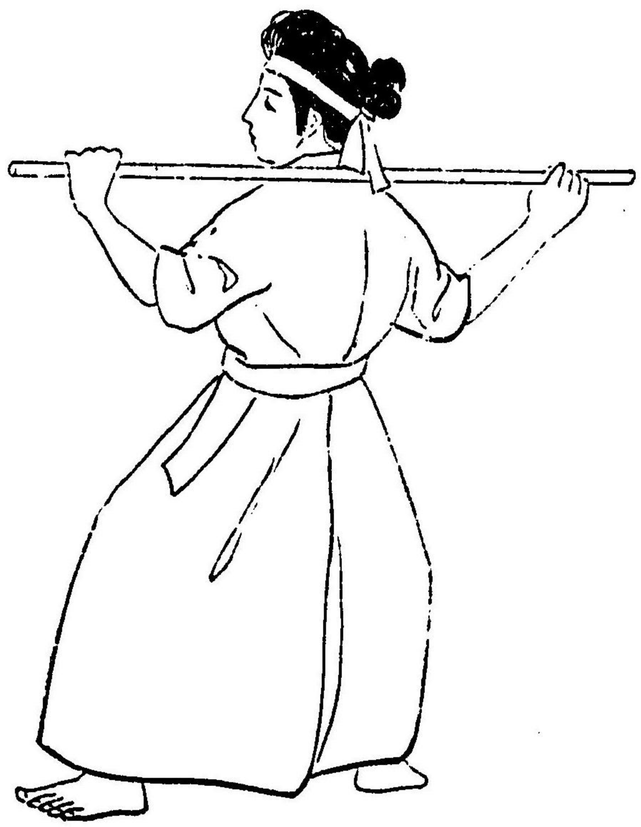
一本目

上段　襟一文字上段構　此の形は對手の腦を打つなり

第三十四圖

右の形は第一圖より第二圖の構へとなり第三十四圖の如くに右足を踏み出し左側面となり棒を圖の如く襟に掛け左足を出すと同時に左手にて横に拂ひ第二圖に復す

第三十五圖



二本目　裙拂　此の形は足を拂ふなり一名犬追物と云ふ

第三十六圖

右の形は第二圖の構より左向き襟一文字構と成り第三十五圖の如くに左の手を以て第三十六圖の如くに裾を拂ふべしかくして左右同じ

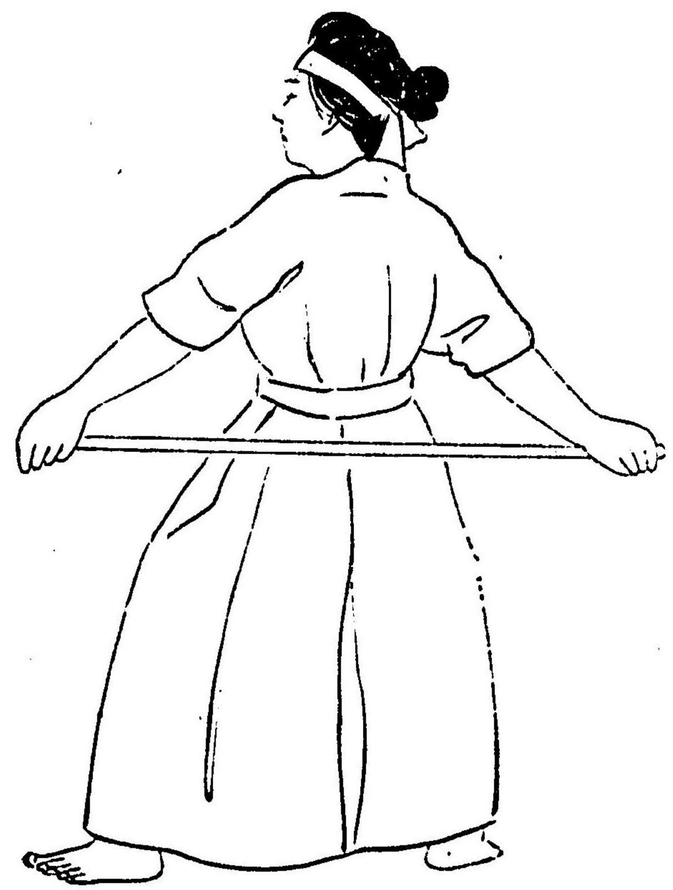
三本目　襟一文字雙手打突き　此の形は打つと見せて突くなり

第三十七圖

右の形は第二圖の構へより襟一文字構となり右足を蹈み出し第三十四圖の如くに構へ第三十七圖の如くに右手を以て打ち下ろし右手を充分に突き出し第二圖に復す右亦之れに倣ふ

四本目　腰一文字逆拂ひ順直し　此の形は對手の打込を拂ひ棒を持ち直し打つなり居合法にては首又は胴を斬るの形なり

第三十八圖



第三十九圖

右の形は第二圖より棒を腰一文字に構へ其まゝ右足を踏み出し第三十八圖の如く腰一文字左構より左手を以て逆横に拂ひ右側面となり棒を第三十九圖の如くに取り直して第二十九圖の如くに左向きに開きしまゝ棒を腰一文字に取り第二圖に復す左亦之れに倣ふ

第四十圖

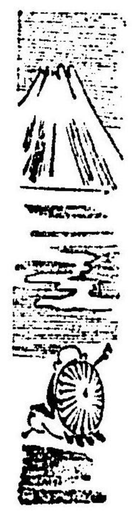
眞暗撥上拂　此の形は暗仕合なれは靜かに進み對手の意氣を窺ひ撥上げ退きて横に拂ふ

第四十一圖

第四十二圖

第四十三圖

右の形は第二圖の構へより第四十圖の如くに左足より四歩靜かに進み第四十一圖の如く棒の下端を以て前面を刎上くると同時に第四十圖に復し爪先にて小足にて舊の位置に復し第三十九圖の如くに棒を取り直し第四十二圖の如くに右足を出すと同時に右手を以て横に拂ひ第四十圖の構となり第四十三圖の如くし右手より背面にて左手に取り直し第四十圖の左構となり第二圖に復す左亦之れに倣ふ



第四十四圖

擂構十方打　此の形は一の棒は對手の横面二の棒は胴三の棒は足を拂ふなり

第四十五圖

右の形は第二圖の構より第四十四圖の如くに棒を右肩に擔ひ構へ右の足を出すと同時に右肩より横に拂ひながら右肩にかけ第四十五圖の如くになし左肩より左足を踏み出すと同時に横に拂ひ再ひ第四十四圖の如くにし次に第二圖に復す

第四十六圖

不動上段打　此の形は腦を打つなり居合法にては首を斬るの形なり

耕花寫

第二圖より第四十六圖の如くに上段に取り右足を一歩踏出すと同時に前方へ打下し第二圖に復す

但し上段の構は爪先を以て直立すべし

明治三十九年五月十三日印刷
明治三十九年五月十六日發行

正價金四拾錢

著者　東京市牛込區北町四十一番地　山邊春正

發行者　東京市京橋區金六町二番地　木田淺次郎

發行者　東京府荏原郡大崎村字下大崎百九十一番地　加茂正木

印刷者　東京市日本橋區蠣殼町三十三番地　仁科衛

印刷所　東京市日本橋區蠣殼町三十三番地　厚信舍

發賣所　東京市京橋區南金六町二番地　金盛堂書店

不許複製

明治三十九年五月十三日印刷
明治三十九年五月十六日發行

正價金四拾錢

著者　東京市牛込區北町四十一番地　山邊春正

發行者　東京市京橋區金六町二番地　木田淺次郎

發行者　東京府荏原郡大崎村字下大崎百九十一番地　加茂正木

印刷者　東京市日本橋區藥研堀町三十三番地　仁科衛

印刷所　東京市日本橋區藥研堀町三十三番地　厚信舍

發賣所　東京市京橋區南金六町二番地　金盛堂書店

不許複製

學習院女學部帝國婦人協會附屬實踐女學校女子工藝學校裁縫教師武田先生考案

專賣特許第六二五七號

柳つま形說明書附壹組

大箱入　定價金五十錢
同　同　金三十錢
中箱入　同　金廿五錢
小箱入　同　金十錢
各一組郵稅金四錢
郵稅金二錢

本具は和服裁縫用各種の褄形に使用せらるべきものにして各種に寸法を明記したるものなり從來世間にある所の篠褄及び貝褄を折衷工夫し双方の形にも應用せらるゝにより特に柳褄形と稱す此褄形は先生多年の工夫に成るものにして各女學校裁縫科にありて多人數の生徒をして使用せしむれば教師の手數を省き便利なると云ふを待たず如何なる初心の人と雖仕立上極めて上品なるを以て既に學習院女學部及帝國婦人協會附屬實踐女學校女子工藝學校裁縫科に於て專ら採用せらるゝに至れり然るに他の裁縫御修業の方々より頻りに御注文を辱うするにより御便宜を計り過般特許を得て博く發賣仕候間御入用の御方は各勸工場特許品販賣店及び下名へ御申込み給はらば即時御郵送仕るべく候　謹言

猶々此つま形は簡易輕便なる實用品に付贈物等にも適當に候

明治三十九年四月

發賣所　東京府下荏原郡大崎村字下大崎百九十一番地　加茂正木

發行所　東京市京橋區南金六町二番地　金盛堂

187
429

東京名産美術東錦繪帖各種

○風俗畫○歷史畫○風景畫○戰爭畫○各種

右は何れも高尚優美にして四季折々の贈り物や西洋人に御土産等には戰勝國の特産物に付最も歡迎せられ候間弊堂は是等の品を種々取揃有之候間多少に不拘御購求願上候

錦繪書籍店

東京市新橋南金六町二番地

木田金盛堂

日本繪葉書展覽會月桂冠一等賞者

山村耕花君筆繪葉書目錄

一元祿風俗　六枚組　定價金三拾錢
一市中片々同　定價金貳拾錢
一風俗十二ヶ月　六枚組上下　定價金三拾錢宛
一風俗山と水　六枚組　定價金三拾錢
一物　六枚組　定價金三拾錢
一時局ポンチいろは短歌　同　定價金廿五錢
一元祿ぶり　五枚組　定價金廿五錢
一秋の樣々　五枚組　定價金二拾錢
一多の樣々　同　定價金二拾錢

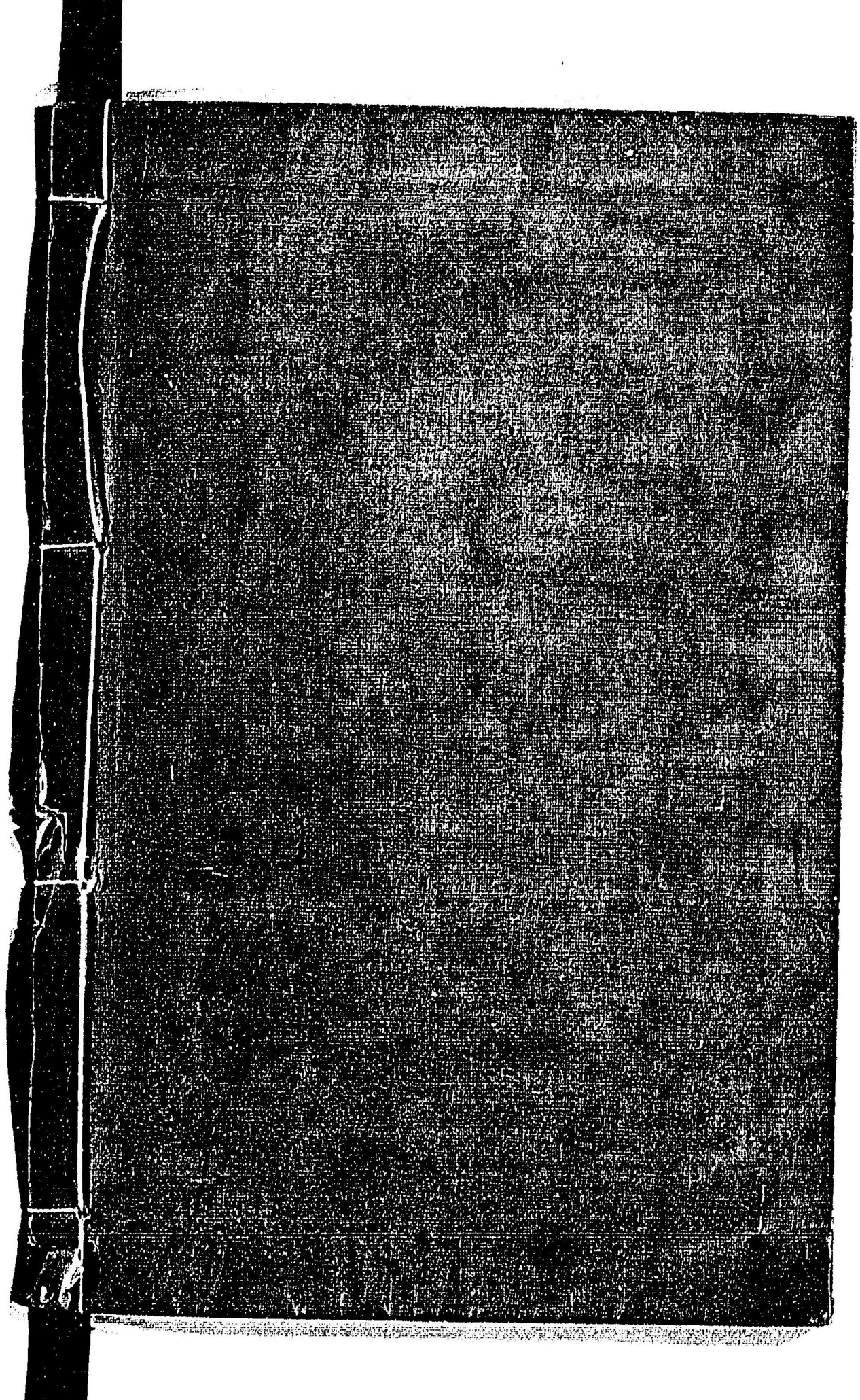
右の外山村君の斬新奇拔なる繪葉書續々出版仕候

舶來繪はがき新荷數百種着仕候

舶來アルバム　和製アルバム　各種

東京新橋南金六町貳番地　**木田金盛堂本店**

同所新橋角博品館內　**木田支店**



187
429

075423-000-1

187-429

女式半棒図解

山辺　春正／著

M39

CEM-0353